

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	17-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Meta-analysis of the association between alcohol consumption and abdominal aortic aneurysm. 飲酒と腹部大動脈瘤との関連に関するメタアナリシス		
執筆者		
Spencer SM, Trower AJ, Jia X, Scott DJA, Greenwood DC.		
掲載誌		
Br J Surg. 2017 Dec;104(13):1756-1764. doi: 10.1002/bjs.10674.		
キーワード		PMID
腹部大動脈瘤、用量反応解析、メタアナリシス		28880391
要 旨		
目的： 飲酒は腹部大動脈瘤（AAA）の危険因子となる可能性があるが、個々の研究からは一致した結果が得られていない。本研究では飲酒と AAA の関連について、メタアナリシスにより数値的に評価することを目的とした。		
方法： 2017 年 1 月までに掲載された、飲酒と AAA の関連に関する前向き研究について、MEDLINE、Embase、Web of Science を用いて検索した。そのうちコホート研究あるいはコホート内症例対照研究を選択基準とした。最大、最少飲酒量群の比較、線形および非線形の用量反応関係をランダム効果モデルによって定量化した。		
結果： 検索の結果、9 研究、11 コホートが分析対象として確認された。計 473,092 名の対象者のうち 3,580 名に AAA が認められた。そのうち 10 コホートの解析による、飲酒量の最少群に対する最大群のリスク比は 0.93（95%信頼区間 0.78-1.11; $P=0.4$, $P=47%$ ）であった。11 コホートによる線形用量反応リスク比は、アルコール 8g/日あたり 1.00（95%信頼区間 0.97-1.04; $P=0.9$, $P=73%$ ）であった。非線形用量反応解析では 2 単位（アルコール換算 16g）/日までは低リスクであるが、それ以上でリスクが上昇する J 字型の関連を示した（ $P=0.05$ ）。2 単位/日以上でのリスクの上昇は女性よりも男性で強く認められた。		
結論： 線形を仮定した解析では飲酒量と AAA とに明らかな関連は認めなかったが、線形の仮定をおかずに解析した結果では飲酒量と AAA との関係は 2 単位/日まではリスクが低減し、それ以上でリスクが上昇する J 字型の関連を認めた。		